

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I. その人らしい暮らしを支える

(1) ケアマネジメント

(2) 日々の支援

(3) 生活環境づくり

(4) 健康を維持するための支援

II. 家族との支え合い

III. 地域との支え合い

IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
“愛媛県地域密着型サービス評価”

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 3 年 8 月 12 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 8名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	4名	

※事業所記入

事業所番号	3870104720
事業所名	グループホームひがし野
(ユニット名)	1階なのはな
記入者(管理者)	
氏名	辻田 美樹
自己評価作成日	令和 3 年 1 月 18 日

(別表第1の2)

<p>【事業所理念】</p> <p>「誠心誠意」</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p> <p>○介護技術の向上では、今年はコロナの影響で外部研修の参加ができていませんでしたが、ベテラン職員がOJTにて指導してもらっています。コロナが収まったら、外部研修にも積極的に参加してもらおうと思っています。</p> <p>○また、気づいたことを報告・連絡・相談して助け合って仕事をする、という目標は、年間目標にも掲げ、職員全員で取り組みました。FTケアという記録がありますが、チェックできていない職員もあり、口頭での申し送りもやり、漏れのないように心がけています。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>開設16年目を迎える事業所は、みかん山などを見渡す閑静な住宅地に立地している。事業所では、地域の関係機関など密接な関係性を築き、地域の中で利用者が事業所周辺に住む住民と様々な交流を深めている。また、管理者や職員は、利用者に入居前の生活習慣や、入居後も興味や習慣などが継続できるよう配慮するほか、様々な要望を聞き取り工夫しながら実現できるよう努めている。また、動画配信を活用した研修なども取り入れ、職員のレベルアップを図るとともに、協力医療機関の協力を得ながら看取りケアや口腔ケアを実践している。さらに、事業所では、新たに介護記録等のシステムを導入し、日々のケアを集積するとともに、職員間で随時検討しながら、利用者視点に立ったサービスの質の向上にも取り組んでいる。</p>
------------------------------	---	--

評価結果表

【実施状況の評価】

◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I. その人らしい暮らしを支える									
(1) ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	利用者全員が80歳以上(事業所の平均年齢90歳)で、移りの年代を迎えられており、一人ひとりのこれまでの人生や意向、希望に沿った支援こそが、今の充実した生活につながると思いで、把握に努めている。当グループホームは、グループで最初に開設した事業所でもあり、現理念の一つである「利用者様を人生の先輩として尊敬し、その人らしい生活を提供します。」は、その運営を通じて理念としたものでもある。ただし、把握した情報がこれまでは個別ファイルでの保存にとどまっていたことから、今回の外部評価を契機に職員がタブレットでも随時確認できるようにした。	○	/	○	
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	△	介護度や自立度等により、把握の困難な利用者については、表情や態度などから職員が得た気づきをカンファレンスで共有したり、FT(=社内LAN)を通じて記録することで、支援のレベルをあげていきたいと考えている。	/	/	/	日々の関わりの中で、職員は利用者から思いや意向などを聞き取るほか、家族からは、入所時や面会時に意向などを聞き取っている。また、利用者の思い出を語り合ってもらう回想法レクリエーションを取り入れ、情報を把握することもある。さらに、事業所では新たに介護記録等のシステムを導入し、タブレット端末を活用しながら思いや意向の共有や把握に努めている。
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	△	入居前の生活歴等の聞き取りや、住宅支援専門員からの提供情報等により把握に努めるとともに、ご自宅使われていた家具やご仏壇、身の回りの物を居室に持ち込んでもらうことにより、できるだけ慣れ親しんだ環境が継続できるよう配慮している。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	△	FTのフェイスシートを活用して、入居前の生活について共有化を図った。今後、内容の充実を目指したい。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	△	よりそいや傾聴を心がけることで、思い込みや見落としは少なくなっているものと思われるが、まだまだ課題は多い。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	△	入居時の主要確認項目の一つとして把握に努めている。ご家族等の来所による面会等の際にも、随時把握を行っているが、こしばらくはコロナ対策最優先で実行に至っていない。	/	/	○	入居時等に、「入所者様のことを知ろう」シートを活用して、職員は利用者や家族から生活歴などの聞き取りをしている。入居後も、日々の関わりの中で、利用者から新たな情報を聞き取っている。また、24時間の生活状況についても、把握して記録に残している。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	職員が利用者と一緒に手伝いやレクリエーションなど、生活の中で把握に努めている。	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	◎	職員間での情報交換や、主治医や協力医療機関、過去の支援機関等からの情報等により把握している。	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	○	毎朝のバイタル測定や排せつ、入浴支援等の際に定期的な把握に努めるとともに、普段見られない行動や表情の見られる利用者には、職員で連携して見守りや傾聴し、気持ちの寄り添いに努めている。	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	介護計画にて24時間の生活の流れや、FTの介護記録で把握している。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント (※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	月2回のカンファレンスで、ユニットごとに担当者を含めて検討し、状況に応じて次回介護計画の変更にも反映している。	/	/	○	事業所では、「入所者様のことを知ろう」シートを活用しながら、日々の関わりの中で得られた情報のほか、かかりつけ医や協力医療機関のアセスメント情報も踏まえて、カンファレンスの中で利用者本人の思いを含めて、関係者でより良いサービス提供を検討している。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	事業所横断での毎月1回の管理職会、年1回の同宿研修、各月開催の全職員会を通じて、介護の役割や利用者個々の支援等についても掘り下げて議論する時間を設け、チーム力向上を目指している。	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	ユニット会で、各利用者に関する個別の課題解決策の検討に努めている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	事業所の管理者としては、それなりの計画になっているものと考ええる。	/	/	/	入居時に、職員は利用者や家族から意向を聞くほか、面会時や電話連絡時を活用して家族から計画に関する意見をもらっている。また、利用者や家族、関係者の意見を踏まえて、ユニット会等で話し合い、計画作成担当者を中心に介護計画を作成している。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	△	入居時や家族への状況報告時に家族の意見を取り入れるようにしている。	○	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	重度化された方に合わせた支援計画を立てて実施している。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	支援者としては歯がゆいが、事業所外の方々との接触は難しいことから、広報誌の送付等での精神的支援をお願いする程度にとどまっている。	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	△	当事業所は、認知症対応型施設であり、全員が80歳を超えるなど利用者に通ずる支援を踏まえながら、晩年に当たる豊かな人生をどう支えるか、職員間で模索しながら進めている。	/	/	○	利用者に関するアセスメント情報や介護計画は、新たに導入した介護記録等のシステムを活用し、職員はパソコンやタブレットでいつでも確認し、情報共有できるようになっている。また、日々の関わりの中で得られた利用者の様子等の記録も入力され、職員間で共有されている。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	支援の状況については、タブレットを活用して随時入力し、引継事項を含めて職員で共有している。	/	/	○	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	記録の内容や分量については、時間帯や職員間でバラツキがみられることから、PDCAサイクルの要領で職員の意識づけを行っている。	/	/	○	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	◎	申し送り事項の記録時等に、各職員の気づきも記録するよう申し合わせている。	/	/	○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	6か月を目安に定期的に見直しを行っている。	/	/	◎	6か月に1回を基本として、介護計画の見直しをしている。状況の変化がある場合には、適宜計画の見直しをしている。また、計画の見直し時など定期的に利用者の現状は確認できているものの、毎月までは十分な現状確認まではできていない。今後は、利用者の現状や介護計画の達成状況が分かるような様式に工夫するなど、職員間で検討することを期待したい。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	△	6か月間で、計画的に各利用者の課題と対応策を協議検討しており、適宜ユニット会で現状確認を行っている。	/	/	△	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	介護度や自立度の状態変化が生じた場合等には、家族に連絡や相談をしながら変更を行うこととしている。	/	/	○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	利用者の安全やプライバシーに配慮しながら、極力その場での解決を目指した協議を行っている。	/	/	○	毎月カンファレンスを実施し、利用者の介護計画に関して検討をしている。また、ユニット会で話し合うほか、緊急案件のある場合にはその日の出勤職員で随時話し合い、利用者への関わりを検討している。また、参加できなかった職員には、議事録等を確認してもらい、共有をしている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	毎回、参加職員全員が、事業所の年間目標である「皆な笑顔！元気！ヤル気で今日もチャレンジ」の精神で臨んでいる。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	△	グループ全体の職員会議については、時間外に、超過勤務対応で毎回2時間を目安に開催している。パート職員や子育て世代の職員もいることから義務化までは行っていない。	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	毎回、記録係を設け、開催結果を周知している。	/	/	○	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	結果記録によっては、FTに掲載し他職員も閲覧可能としている。	/	/	○	カンファレンスやユニット会の記録などは、新たに導入した介護記録等のシステムを活用して情報共有をすることができる。また、介護記録等のシステムを活用して、申し送り等も実施できている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	FTによる申し送りが定着してきた。職員での共有や後日の再確認等で有効性が高い。一方で書き言葉の短所もあり、その長短等を職員が互いに理解するための努力も必要になっている。	○	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にした支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	コロナの影響で利用者の活動場所が限定される中で、何とか充実した時間を過ごしてもらおうと考え、まずは、利用者の話や思いを聞くことから始まることになる。	/	/	/	着る服や日中の活動を選ぶなど、職員は生活の中で利用者が選択できることは、全て選んでもらえるよう努めている。また、日々の生活の中で、体操や散歩、レクリエーションなど、利用者のやりたいことに参加してもらっている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	洗顔用のタオル選び、散歩の参加不参加、服選び、塗り絵での色選び、何から食べるかなど、選択の機会は生活や活動の中にたくさんあることから、利用者自身で行えることは見守り、自立支援を行っている。	/	/	○	
		c	利用者が思いや希望を表現できるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	△	利用者には恥ずかしがりや、目立ちたがりやなど性格の違い、理解力、年齢や体調等によりその時々での変化もあり、それらを常に把握しながら、臨機応変の支援を行うにはまだまだ課題も多い。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	△	基本の時間割をベースにしながらも、入浴の時間帯や所要時間、回数など極力利用者の意向に沿った対応になるよう心がけている。ただし、時に他利用者支援の都合などで待ってもらう場合もある。	/	/	/	
		e	利用者の活き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉かけや雰囲気づくりをしている。	◎	年間目標の「皆な笑顔」を利用者にも広げるべく、笑いや、笑顔、リラクスのための言葉かけを行っている。	/	/	○	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	認知症対応型の事業所として、そうした中での対応を期待されているものと努めている。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	食事や入浴、排せつやその失敗時の介助等、生存欲求レベルの支援を行いながら、同時に個人のニーズに合わせた自己実現レベルの支援も期待される介護職員や事業所としてあるべき姿(理想)を考えるとまだまだハードルは高い。	○	◎	○	事業所では新入職員に対して、利用者の尊厳に関する研修を実施している。居室を訪れる際には、職員がノックと声かけを行うことでプライバシーを守り、入室することができている。また、日常生活の中でも、利用者に配慮したさりげない声かけをすることができている。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であらさまざまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉かけや対応を行っている。	○	介護を職場として選んでいる職員は、基本的にやさしい。助けがほしいという思いでやりすぎになったり、けがをさせてはと消極的になったりすることがある。職員の入れ替わりもある中で、見守りや声かけのノウハウをどう継承するかも課題である。	/	/	○	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	排せつと入浴の介助は、介護事業所の基本の支援項目であり、利用者の誇りを傷つけないように特に留意して声掛けや環境整備に努めている。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	◎	コロナ対策の影響で、共通スペースで利用者が過ごす時間が長くなり、その結果居室への出入りは利用者の視線を受けながら行うことが多くなっている。このため声掛けとその了解(反応)の確認を毎回欠かせないことを申し合わせて実施している。	/	/	◎	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	職員採用時の説明のほか、就業規則や運営規程、重要事項説明書にも明記しており、職員も当然の遵守事項としての自覚を有しているものとする。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者にも助けを求めたり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	常日頃から互いに感謝の言葉がよく交わされている。	/	/	/	認知症状の進行など、利用者間のトラブルが起こらないように、職員は早めの対応を心がけている。以前には、利用者のユニット変更を行い、対応をしたこともある。また、職員は利用者同士が楽しく会話できるように声かけをしたり、利用者の話を傾聴したりしている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	看取りまでお世話する覚悟で利用者をお預かりしている事業所として、利用者の皆さんも自覚をされているようで、利用者相互での助け合い、譲り合いの気持ちをよく感じる。時に利用者間で相性等の合わない場合には、本人の了解も得てユニット変更等で対応している。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったら孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらった場面をつくる等)。	○	事業所としても開設後10年が経過し、こうした場合の対応について職員にも利用者の側にもある程度の対応力が備わっていると考える。特に外出もままならない中では、イライラや発散の機会も必要であり、そうした場合には、皆で一緒に大声を出したり笑い声を出したり、試行している。	/	/	○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	利用者個々の思いの尊重は、必然的に他利用者とはぶつかる部分を生じることにもなり、利用者間での譲り合いも不可欠になる。そうした関係性をどう理解してもらい、職員が間に入り、傾聴し落ち着いていただいている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	△	入居時に収集した情報をFTで共有し、支援の必要に応じて確認しながら活用している。ただし、利用者を取り巻く人間関係の情報については、本人からの聞き取りには期待できず入居までに収集できたものが主とならざるを得ないため、情報量としては限られたものとなっている。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	△	利用開始前の状況については、一定の把握はできているものと考え、コロナの対策期間が長期化しているだけにこの間の地域との関係づくりや馴染みの場所づくりなどはできていない。	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	×	利用者の命を守ることを最優先に、外部の方との接触が極力ない状態を確保しており、この項目は実施できていない。	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	×	行政機関による発令事項等に対応して、ご家族でも面会をお断りしたり、ガラス越しでの携帯電話利用に限ったりしている状況にあり、この項目も実現できていない。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	上記の状況下で、利用者の希望に添ったお出かけはできていない。ただし、事業所の今年度の目標に「皆で外出しよう」を掲げ、天気や気温に応じて、できるだけ中庭や散歩に出かける機会を設けている。	○	○	○	現在のコロナ禍において、事業所では利用者の健康管理を優先し、外部との接触等を控えていることもあり、外出できる機会は減少している。毎年、家族と一緒に県外へのバス旅行に出かけていたが、現在は中止している。家族と天気の良い日は、事象所周辺の散歩をしたり、外に出て外気浴をしたりしながら、利用者の気分転換を図っている。また、車いすの利用者も庭に出て、外気浴を楽しむことができています。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	できていない。	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	中庭ですごせる機会は随時設けている。	/	/	○	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	△	コロナ対策を実施している農園の協力を得て、今年5月に「いちご狩り」を実施した。回数は限られることになるが、今後も利用者の希望を確認しながら万全の対策の上、こうした機会を設けたい。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	動画研修を行っている。ユニット会のとき、担当者が利用者の状態や変化、症状を発表し、ケア方法を考えている。	/	/	/	日常生活の場面において、職員がすぐに介助をすることなく、少し見守りをしながら、できることは利用者自身でしてもらうよう取り組んでいる。また、日頃から口腔ケアやリハビリ体操、散歩をしたり、家事などの生活リハビリを取り入れたりしながら、利用者の心身機能の維持に努めている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	◎	会社全体では60歳代の職員も多く、認知症に限らず、年齢による身体面の機能低下は避けられないことや、それでも体を動かしていることと一定の機能は維持できることを共有している。そうしたこともあり、生活リハビリを通じて機能訓練を重視するとともに職員の定期的な異動により、支援レベルの維持向上を図っている。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	優しく、気の付く職員が多いだけに、やりすぎないように、安全の確保をしながらの見守りを優先するよう申し合わせている。	○	/	○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	お盆を拭いたり物を干したりする役割を利用者に引き受けてもらい、着手時の声かけや完了時のねぎらいの言葉がけを行っている。各利用者のやる気や実践をどこまで引き出せるか、個々の職員にとっても能力向上が求められている。	/	/	/	編み物やピアノ演奏、塗り絵など、利用者のできることをしてもらい、職員は出番づくりを意識した支援をしている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	日々の生活支援や活動支援の中で心掛けている。	○	◎	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	○	月1回東山神社の清掃を行っている。今年はほとんど中止となっているが、地域の行事にも参加している。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つと捉え、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	大半が女性の利用者であることもあり、各利用者らしい服装や身だしなみの支援に努めている。	/	/	/	乳液や口紅を塗るなど、職員は身だしなみを整える準備をするとともに、利用者に声かけをしている。また、衣服などの乱れが見られる場合には、職員がさりげなく利用者のズボンなどを直したり、ゆったりめで脱着がしやすいズボンを履いてもらったりするなどの工夫をしている。さらに、訪問理容を活用して定期的に髪型を整えることで、重度の利用者もおしゃれを楽しめるよう支援している。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	○	各利用者のお気に入りの服や髪形を把握したり、希望の小物など購入できるよう支援を行っている。	/	/	/	
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	たとえば二つの服を並べて選んでもらうなど、個々の利用者に応じた支援を心がけている。	/	/	/	
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせたその人らしい服装を楽しむよう支援している。	○	季節に応じて収納場所を変更しその季節に合った服や品物を取り出しやすい場所にするなどなどの支援を行っている。	/	/	/	
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	利用者が恥をかかないような配慮も心掛けている。	○	○	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	×	散髪や髪染めについては出張サービスの得られる事業者に限られる。ただし、利用者の希望にあったカットやカラーリングなどの協力を得ている。	/	/	/	
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	△	訪問カットにて、寝たきりの方も散髪できるようにしている。	/	/	○	
		h	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	△	訪問カットにて、寝たきりの方も散髪できるようにしている。	/	/	○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	食事は、生存のためだけでなく、自己実現といった高いレベルの欲求の実現も含めているいろいろな可能性を秘めたものといった理解は、職員とも共有できているものと考えている。	/	/	/	事業所には、共有スペースの横に台所があり、利用者の目の前で食事の準備を行い、匂いや音などで食事の雰囲気を感じてもらおうとともに、音楽を流すなどの対応もできている。下ごしらえや調理、盛り付け、食器洗い、台拭きなど、利用者と一緒に食事の意識を高める手伝いをしてもらっている。また、献立は利用者の好きな物などの意見を聞くほか、医師や歯科医師から、塩分や低栄養などの意見も取り入れながら、朝食は職員が作れる物を調理している。昼食と夕食は、外注業者が対応し、事業所で盛り付けなどを行っている。利用者の状態に応じて、きざみやおかゆなどの食の形態にも対応している。また、現在のコロナ禍や働き方改革での休憩時間等の調整のため、利用者と一緒に食事をしておらず、見守りや必要な介助をしている。さらに、職員は利用者とは別の場所で食事を摂っているため、コロナ禍の終息後には、一緒に「いただきます」などの挨拶をしたり、一部の職員が順番に食卓を囲むなど、食事を一緒に楽しみながら食べるよう雰囲気づくりをしたりするなど、職員間で検討することを期待したい。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	GHで調理をしている朝食の献立や、昼食と夕食を含めた盛り付けや食器並べ、後片付けなどは、利用者との協働を心掛けている。	/	/	○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	△	協力可能な利用者に限られるが、役割の一つとして、お汁づくりやおやぶりの分担をしている。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	把握の上、外注先にも特にアレルギー関連の材料は使用しないよう依頼している。	/	/	/	
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔ながらの味を取り入れている。	○	朝食には、季節のものを取り入れるなど心掛けている。食事の感想やメニューについては利用者からも毎月聞き取りを行い、外注先に協力を依頼している。	/	/	○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法として、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	昼食と夕食についても、配膳の際に、個々の利用者の状況に応じて、刻みを入れるなどの対応を行っている。特に、生活や活動の場が限定される利用者だけに、食事や食事の時間帯は大切なものであり、楽しく食べられることを心掛けている。	/	/	/	
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	居宅での生活の延長として利用者本人の思い入れにも配慮し自分の使用していたものを持ってきてもらっている。	/	/	◎	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	△	食事の職員による見守りなどできるだけ配慮は行っている。ただし、コロナ感染対策や職員の休憩時間調整の都合上、食卓を囲んでの一緒に食事についてはできていないため今後の課題となる。	/	/	△	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わかるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	雰囲気づくりなどできるだけ配慮は行っているが、昼食と夕食は調理を委託しているため、実現できているかは他者の判断を待ちたい。	○	/	○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	◎	FTも活用して、毎回の摂取量を記録し、傾向等も把握することにより次回の食事に反映するよう取り組んでいる。	/	/	/	
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	(同上)	/	/	/	
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	食事の都度、献立に関する職員の意見や利用者の摂食状況等について外注先に情報提供を行うとともに、利用者ごとに医療の専門的アドバイスを受けて、食事量の調整等を行っている。	/	/	○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	従来からの厨房や食堂の衛生管理に加えて、6月から改正食品衛生法に対応した衛生管理の見える化にグループ全体で取り組んでいる。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	食後の声掛けにて口腔ケアは定着しており、自分でできない箇所は職員が介助している。	/	/	/	職員は研修を受け、口腔ケアの重要性を理解している。毎食後に、職員は声をかけ、利用者は洗面所で歯磨きなどを行い、磨き残しなどの確認やできない部分の介助をしている。また、定期的に歯科衛生士の訪問による指導や、歯科医の診察があり、利用者の口腔内の状況を確認することができている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	◎	週1回歯科衛生士に診てもらい、指導を受けている。	/	/	◎	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	(同上)	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	夜間に義歯をはずして洗浄し、毎日の清潔保持に努めている。	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	◎	歯は、健康で長生きしてもらうための必須のものであり、その手入れも本人がしっかりとできることが最善と考える。職員ともこのことを共有しながら、歯の管理支援を心がけている。	/	/	◎	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	◎	(同上)	/	/	/	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	排せつの支援は、10-cのとおり、介護事業所としての基本支援項目の一つであり、左記の理解は全職員ができていものと考えている。	/	/	/	事業所では、利用者の24時間の排泄リズムを把握し、職員は声かけや誘導をしながら、トイレでの排泄ができるよう心がけて支援している。布パンツで生活できている利用者があるものの、紙パンツを使用している利用者も多い。また、便秘状態の対応として、職員は利用者の水分摂取に加えて、ヨーグルトや食物繊維の摂取を心がけ、スムーズな排泄ができるよう努めている。さらに、利用者の状態をユニット会などで話し合い、必要に応じて適切な排泄用品を使用している。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	便秘一般についての理解はできているものと考えている。	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	各利用者の状況の一定の把握はできている。	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	各利用者の状況に合わせた支援を心がけている。	◎	/	○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	調子のいい排せつの際の爽快感は万人共通と考える。利用者にはこの爽快感を感じてもらえるよう、日々の運動や睡眠、食事等全般の支援から、パットの種類やトイレ誘導の回数等を含めて検討している。	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	こまめなトイレ誘導を心掛けている。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	△	話し合いの結果、希望をされない場合には、その希望に添って支援を行っている。	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	利用者については、尿量や体調に合わせて、使い分けている。	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	水分摂取をしっかり行い、ヨーグルト等乳製品や繊維の多い食材の利用、トイレ使用時の時間もゆとりが取れるようにしている。	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	○	利用者の習慣を把握しその日の希望や体調に合わせた入浴の介護を心掛けている。	◎	/	○	利用者は、週2回入浴することができる。職員は利用者一人ひとりのタイミングを考えて、声かけや誘導をしながら、気持ちの良い入浴ができるよう努めている。また、自身で洗えるところは行ってもらい、職員は洗えていない部分などの介助をしている。1階の浴室には、スライド式のリフト浴もあり、利用者の状態に合わせて、安心安全な入浴も支援している。さらに、入浴を拒否する利用者には様子を見て、試行錯誤しながら入浴してもらえよう工夫している。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	○	入浴時には声かけを行い、リラックスした雰囲気づくりを心掛けている。	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	利用者にはできることは、安全の確保をしながら、取り入れるようにしている。	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ちよく入浴できるよう工夫している。	△	入浴を拒否される場合には、一度様子を見る。拒否が続く場合、部分浴や清拭に切り替える。体調不良と考えられる場合には、看護師や協力医療機関に連絡を行う。	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	事前、事後の観察は欠かさず行い、結果はFTIに記録している。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	夜間の見回りや翌朝の状況観察、本人からの聞き取り等により、その日の睡眠の状況と合わせて、睡眠パターンについても把握している。	/	/	/	事業所では、睡眠導入剤や安定剤など、なるべく頼らないような支援に取り組んでいる。日中には、レクリエーションや体操の活動提供を行うなど、利用者を楽しみを見つけて活動してもらい、夜間に利用者が安眠ができるよう取り組んでいる。また、昼寝などを取り入れるとともに、不眠の利用者には体調面を考え、医師に相談しながら対応をしている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	日中の生活や活動の支援を通じて、安眠の確保を目指すとともに、不眠の訴えに対しては、申し送りの上、リラックスや笑いの支援に合わせて原因把握のための観察に努めている。	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	眠剤を内服の方は少なく、夜間の過ごし方など状態に合わせて、医師と相談しながら調整を行っている。日中、なるべく、起きてもらいレクリエーションや外に出るなど行っている。(2Fこすす2人)	/	/	○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	居室はすべてユニット式の個室で、日課としても休憩や昼寝の可能な時間設定を行っている。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	先方に事情の無い限りは、希望に応じて自由に連絡が取れるように支援している。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	×	利用者全員が80歳を超え、読み書きの能力低下とともに、利用者の中には電話や手紙の送り先がなくなった方も出てきている。そうした利用者の心情を考えると、手紙や電話は共通の話題や目標としては取り上げがたい状況にある。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。(携帯保持者 0人)	○	電話については、利用者が思い思いに対応できるよう配慮している。(2Fこすす1人)	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	事例は限られるが、届いた場合には、すぐに本人にお渡しし、希望があれば音読等の支援を行っている。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	×	上記bに記載した状況もあり、家族等への依頼までは行っていない。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。(18人中 自己管理者 人、一部管理 人)	×	自己管理できる方には必要な日用品や嗜好品が買える程度のお金をお遣いとして渡している。そうでない方は職員が管理し、毎日の買物時に希望を聞くなどと一緒に購入できるように支援してきた。コロナで使用部分は中断中。	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	×	コロナ以前には、定期的な買い物訓練やお出かけの際に、それぞれ財布を持参して買い物を楽しんでもらっていた。	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	×	自由な外出再開後のご協力をお願いしている。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	△	お金を所持できたり、使える利用者には、できるだけ使ってもらえるよう、無理強いや押しつけにならない範囲で支援を行っている。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	管理を希望される場合には、管理規程に基づいて契約の上、原因や印鑑等の管理を行っている。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	◎	管理ができなくなってきた利用者については、管理規程に基づいてご家族にも協力を仰ぎ、契約を結んだ上で、事業所で管理を行っている。使用状況は、毎月レシートの写しと合わせてご家族に報告している。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	ご希望により看取りまでお世話する覚悟でお引き受けしており、その中で発生するお困りごとの解消等についても、極力お応えできるよう掛けている。具体的な実績は限られるかもしれないが、これまでこうした意識で取り組んできている。	◎	/	○	現在のコロナ禍において、外出や面会制限が設けられているため、外出などの要望に対応できない場合があるが、可能な限り対応に努めている。コロナ禍以前は、担当職員が利用者の希望を聞き取り、自宅への外出やお墓参り、外食など、一人ひとりのニーズにできるだけ対応することができていた。

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
(3) 生活環境づくり										
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	玄関や門周りは、一般家庭をイメージする設えとしている。椅子などを置いて、くつろげる雰囲気になるように工夫している。	○	◎	○	玄関周りには草木が植えられているほか、ベンチが設置されている。事業所前では金魚が飼育され、家庭的な雰囲気、親しみも感じられる。	
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	◎	季節に合った飾りを置いたり雨の日には洗濯物をリビングに干すなど、日々の変化を感じられるように支援している。照明の明るさや冷暖房、テレビの音量などは利用者の意見を聞きながら調整している。	○	○	◎	共用スペースには、季節の飾りつけをしているほか、昔の電話やラジオなどが置かれている。電子ピアノも置かれ、弾き慣れた利用者が演奏しながら、他の利用者と一緒に歌を歌うこともある。利用者はソファや食堂のいすに座るなど、思い思いの場所で過ごすことができる。また、新たな利用者の入居時には、ウェルカムボードを作成し、利用者から感激されたこともある。さらに、トイレ等の臭い対策として、消臭剤などを使用している。	
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	使用の都度、また定期的に清掃を実施している。ただし、トイレは使用後の臭いが気になるときがある。	/	/	/		○
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	建物の周囲は緑に恵まれており、その景色を窓から取り入れたり、季節に合わせた額や花を飾ったりしている。	/	/	/		○
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	◎	リビングとダイニングを一体とし、広めでバリアフリーの通路で、居室とつながっているため、利用者には居室を含めて思い思いの場所で過ごしてもらっている。	/	/	/		/
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	◎	トイレ、浴室ともに、入り口が目立たない構造で、内部も外からは直接見えない構造としている。	/	/	/		/
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	◎	家具は使い慣れた物を自由に持ってきてもらっている。可能であればご本人と相談しながら使いやすい配置にしている。	○	/	○	居室には、ベッドやエアコン、収納が備えつけられている。利用者は、仏壇やソファ、テレビなどを持ち込むほか、写真を飾るなど、くつろげる空間づくりができています。	
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	掲示板にお知らせや日課を掲出し、利用者がそれぞれで判断できたり、動線を工夫して、運動量を確保するなど可能な範囲で工夫をしている。	/	/	○	居室やトイレ、浴室は、分かりやすく表示されている。また、数種類の新聞や雑誌を、利用者が自由に手に取れるよう配置するなど、活動意欲を引き出す環境がつけられている。	
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	バリアフリー化や、見やすい表示、通路部分にはものを置かない、事故やヒヤリハットの経験を生かすなど可能な範囲で工夫をしている。	/	/	/		
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	△	点数は限られるが、今は見かけないミシンや駄菓子屋で売っていた品物など、利用者の記憶を喚起する品物も配置している。	/	/	/		
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	設問の「玄関」が、ユニットの出入り口を兼ねた玄関を指すのか、建物全体の玄関も含むのかが明確でないものの、昨今一般家庭でも門や玄関は日中も施錠し、来客時に開錠することが一般化していることを考えると、ここでの玄関は、上記に限られるものとして以下の自己評価を行った。当事業所では、利用者の行動を直接的に制限することになる居室やユニットの出入り口の施錠は行っていない。ただし、玄関と門には、近隣の一般家庭と同様に、防犯上から施錠し、来客時には直ぐに職員が対応するとともに、利用者が外出を希望する際には、開閉を行っている。	x	◎	○	現在のコロナ禍の外出や面会制限や、防犯や安全面を考え、家族等の理解を得て、玄関は施錠している。家族の来訪時には、インターフォンを鳴らしてもらい、一般家庭と同様の対応をしている。また、事業所では、玄関の内戸にセンサーを取り付け、センサー音を確認しながら利用者が屋外に出ようとするものに対して、積極的な外出対応をしている。また、居室のドアは利用者の希望に応じて、開閉の対応をしている。	
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	居室やユニットの玄関には鍵をかけないこと、及び玄関には防犯の都合から鍵をかけることについて、ご家族の理解を得ている。	/	/	/		
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	ユニットの入り口を兼ねない当事業所の「玄関」の施錠については、一般家庭の動向と同様に、不審者対策を含む防犯上の観点から今後も通常は施錠し、来客時や利用者の希望に応じて随時開け締めすることで対応したい。また、この対応については、コロナ終息後の運営推進会議等で、地域の参加者からのご意見等も伺いたい。	/	/	/		

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	利用者の病歴等について、タブレットでも随時確認ができるようにしている。	/	/	/	
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	気が付いたことは、タブレット利用により随時記録するとともに、他職員も随時閲覧可能となっている。	/	/	/	
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等についても気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	普段に往診の受けられる医療機関及び入院の可能な医療機関との協力医療機関契約を結んでおり、随時、利用者の状況に応じた協力を受けている。	/	/	/	
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	往診診療の受けられる医療機関と協力医療機関契約を結んでいる。その上で、日常の気つきは都度自社の看護師に伝えとともに、必要に応じて医療機関への受診につなげている。	◎	/	/	
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	入居前からの利用者の主治医との関係も大切にしながら、利用者やご家族の意向を尊重して必要な治療が受けられるように支援している。	/	/	/	
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	契約協力医療機関の医師にも加わってもらい、利用者やご家族との話せる機会を設けている。	/	/	/	
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	入院治療を受けられる医療機関と協力医療機関契約が結んでいる。このため、必要に応じた入院や円滑な情報交換が行えているものと考えられる。	/	/	/	
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	最近の入院事例では、術後のリハビリの状況等についての医療機関からの情報提供を受けて、退院後の支援につなげている。	/	/	/	
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	△	入院治療を受けられる協力医療機関との関係は、利用者を介した関係が主であり、入院を要する利用者が長期間ない場合には、情報交換が滞る状況にある。	/	/	/	
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気つきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	看護師は、利用者支援には不可欠な状況であり、現在グループとしては6人の看護師(准看護師を含む。)が勤務している。そのうえで看護師には、できるだけ全事業所の利用者の把握ができるよう、比較的短期間での異動や業務発令を行うとともに、有事の際には、24時間いずれかの看護師の連携がとれる体制としている。	/	/	/	
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	a 及び31-a に同じ	/	/	/	
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	(同上)	/	/	/	
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	◎	入居者の記録ケースからすぐに何の薬が処方されているのかを把握し、病状の変化にも対応できるようにしている。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	内服薬の管理は、利用者との療養管理契約を締結している薬局の職員が行っている。その上で、服薬支援は職員が行っている。服薬支援時には、複数の職員でチェックを行い、内服後は声出し確認を行っている。飲み残しやご服用の疑いの出た場合には、都度看護師や協力医療機関に連絡し利用者の安全確保に努めるとともに、事故防止委員会に報告し再発防止に努めている。	/	/	/	
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	△	服薬後の様子を観察するとともに、協力医療機関の医師による往診の際に、職員が立ち会い、気付いたことは伝えるようにしている。	/	/	/	
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	◎	上記の服薬との因果関係の確認までは至っていないが、利用者の体調等に何らかの異常が見られた場合には、看護師や医療機関に連絡するとともに、事業所内で記録を共有している。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	看取りに関する指針を策定し、入居時の重要事項説明書で概要説明を行うとともに、状態変化時等に、利用者やご家族が看取りを希望されるときには、ご家族と医療機関の医師を交えて看取りについての確認書を取り交わした上で、支援を実施している。	/	/	/	事業所では、「看取りに関する指針」を整備し、入所時に利用者や家族に説明するほか、急変時等には医師等を交えて話し合い、意向を確認している。定期的に看取り介護等の職員研修も実施している。また、事業所では、訪問診療医の協力が得られ、支援体制が整っているほか、夜間の緊急時には管理者等がかけつけてくれ、職員は安心感がある。さらに、看取り介護の後には、家族や職員の精神面にも配慮し、フォローをしている。	
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	◎ (同上)		○		◎		
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	◎	看取りは、職員にとっても重い支援であり、力量も要することから、経験者を含めた体制をとることとしている。	/	/	/		/
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	◎	看取りに関する指針に明記し、医師の立会も得て、説明や確認を行っている。	/	/	/		/
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	◎	看取りの際にも、医療機関への入院を希望される場合には、医療機関での受入れや、その場合でも再入居も可能であることなどについて、医療連携項目としている。	/	/	/		/
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	◎	ご家族とのこまめな連絡を通じて支援を行うこととしている。	/	/	/		/
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	◎	グループで事故防止検討委員会を立ち上げ、年間を通じて学んでいる。委員会の結果はFTを通じて共有している。	/	/	/		
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	◎	感染対策マニュアルを整備し、手順を確認できるようにしている。	/	/	/		
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入力し、取り入れている。	◎	松山市からのコロナ感染に係るメール確認を行っている。また、コロナ対策も兼ねて、知事や松山市長の会見は確認し、事業に関係する動きがあった場合には、法人代表者からのお知らせとしてFTを通じて、注意喚起や指示を行っている。また、職員にも県及び松山市のラインへの登録を勧めている。	/	/	/		
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	◎	面会や業者の出入りの制限など、状況に合わせて対応している。	/	/	/		
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	コロナ対策もあり、職員の手洗い、手指消毒、うがいを徹底している。利用者や来訪者にも検温、手指消毒の協力を得ている。	/	/	/		

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	◎	来所時や毎月の報告などでコミュニケーションを図り、利用者の状況と課題を共有することによりで共により良い支援が行えるように努めている。	/	/	/	事業所の夏祭りや餅つきなどの行事に、家族に声をかけて参加協力をしてもらうことができています。毎年、家族と一緒に県外へのバス旅行等に出かけることができていたが、現在のコロナ禍において、家族に呼びかけた行事の開催は中止している。コロナ禍においても、窓越しでの家族の面会には対応している。面会時には職員から家族に声をかけて意見や要望を聞いていたが、直接会って話をする機会は減っているものの、事業所では、毎月担当職員が便りを作成し、利用者の様子のコメントなどを記載するとともに、写真を添えて送付している。また、動画を家族に送付するなどの工夫をし、利用者の近況を分かりやすく伝えている。また、事業所の運営状況も全ての家族に伝えることができています。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	◎	現在は面会を制限しているが、従来は毎週来所され外出される方もいる。家族訪問時には、湯茶をお出しし、居室でゆっくり会話してもらっている。	/	/	/	
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	バス旅行や春、夏のお祭りなど家族が参加できる機会を作っている。人数は少ないものの家族の参加も得られている。	◎	/	○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	◎	電話やたよりで近況報告を行っている。極力写真も併用して利用者の近況が分かるように心掛けている。	○	/	◎	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	○	ニーズに沿った説明を行っている。	/	/	/	
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	△	ご家族の中でもキーパーソンとなる方との関係づくりは大切と考えている。ただし、コロナの影響で直接お話できる機会は減っている。	/	/	/	
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	たよりの定期的送付をはじめ、機会をとらえてご家族に説明報告するよう心掛けている。	○	/	○	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	△	春、秋祭りや演奏会、旅行など、ご家族も参加してもらえる行事を企画開催し、案内を行っている。	/	/	/	
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	○	ご家族の一定の理解は得られているものと考えている。	/	/	/	
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	ご家族の来訪時には職員によるあいさつや声掛けによりご家族の気がかりなことや意見、希望等の把握に努めている。	/	/	○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	利用者の立場に立って契約に関する説明を行い、不安点や疑問点の解消に努めている。	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	退去については、利用者の希望に応じていつでも自由に行けることを契約書に明記するとともに、その場合にも支援を行うことについて、運営規程及び重要事項説明書に記載している。	/	/	/	
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	料金改定の際には、毎回事前に説明のうえ同意を得ている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ.地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域:事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	運動会や文化祭などの地域行事に積極的に参加している。月2回は地域の老人クラブと交替で近所の神社清掃にも出かけている。秋祭りではスタッフが神輿を担ぐなど、地域の一員という考えを持って参加している。その他野菜作りなども地域の方に教えてもらっている。	/	◎	/	現在のコロナ禍において、地域住民等と交流できる機会は減少している。コロナ禍以前は、地域の神社清掃や市民大清掃などに参加したり、庭などで家族や近隣住民を招待して食事をするなど、地域との付き合いができていた。また、地方祭や演奏会、夏祭りなどのイベント時には、地域住民が事業所を訪問する関係が築かれている。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	◎	普段の散歩等でのあいさつや、地域の方も参加できる秋と春の祭り、演奏会などを定期的実施している。	/	△	◎	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	◎	事業所周辺の方には、利用者と認識してもらえるようになり、散歩の際の路上でのあいさつや会釈もいただいている。	/	/	/	
		d	地域の人気が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	○	秋祭りや演奏会、夏祭りなどには、地域の方にも事業所に来てもらっている。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	運営推進会議の参加者を中心に、気軽にお付き合いできる方もできている。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	×	コロナ対策のため、事業所側からの働きかけは一切中断している。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	○	盆踊りなどを教えてもらっている。中学生や大学生の職場体験の受け入れやクリスマスや敬老会への参加などを行っている。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	買い物や理美容など、地元商店の利用を心掛けている。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	運営推進会議では町内会役員、民生委員、老人会、包括センター、市介護保険課、家族、入居者が参加し、行事や運営に関する報告や意見交換を行なっている。ただし、コロナ発生後は文書開催としている。	◎	/	○	運営推進会議には、全ての利用者、家族や地域の代表者、市担当者等の参加を得て開催している。現在のコロナ禍において、文章開催の方法も併用しながら、会議を開催することができている。また、会議では、スライドや映像を活用し、分かりやすく報告する工夫をしているほか、家族等から出された意見は詳細に記録し、検討して次回の会議等で報告をしている。さらに、議事録は施設内で自由に閲覧できるようになっている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	◎	スライドやDVDを使って報告を行っている。	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	意見や提案による取り組み状況は、次回の運営推進会議で報告を行うようにしている。	/	◎	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	◎	日程や時間帯は事前調整を行い、できるだけ多くの参加が得られるようにしている。	/	◎	/	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	△	議事録は事業所の玄関に掲示してきた。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	◎	誠心誠意を基本理念とし、毎朝の朝礼で唱和している。ユニット会では、その理念に基づいた実践について発表を行っている。	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	△	グループのホームページに理念を掲載し、発信に努めている。	○	○	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	随時事業所に出向き支援状況を把握するとともに、職員による発表の場でもある朝礼やユニット会にも参加し、力量の把握に努めている。また、自己意欲による動画研修や、職員の介護福祉士等の資格取得を促進しており、希望職員への研修受講の支援を行っている。	/	/	/	事業所には新人職員も多く、ベテラン職員がついて教える形で取り組んでいる。定期的に、カンファレンスなどの職員の集合時を活用して、全体研修を実施し、職員のスキルアップにも努めている。現在のコロナ禍の対応で、職員には県在宅介護研修センターの動画配信の研修を視聴してもらい、視聴後には報告書を提出してもらっている。さらに、代表者は、人づくりに力を入れているほか、管理者は日々の勤務終了後に職員に声をかけ、職員の話を聞いたり、相談に応じたりすることができており、職員のストレス軽減などにも取り組んでいる。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	△	日々のケアの実施状況や経験年数に応じて講習や研修を受けている。自社で開設している初任者研修、実務者研修には、受講資格のできた職員の受講を奨励している。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	会社全体で働きやすい環境作りをしている。毎朝の朝礼で唱和している理念にも5つめに「職員と職員の家族を守り大切にします。」が掲げられている。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	市町の連絡会等には管理者や担当者等を優先的に参加させている。職員の参加も可能な倫理法人会の勉強会など、職員にも参加を呼びかけている。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	◎	職員の話す時間を持つことにより、必要に応じて随時の異動も含めた環境づくりを心掛けている。	○	○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	◎	虐待防止と身体的拘束の禁止については、介護の基本に当たるものとして、学びの繰り返しや職員の認識の深化を心掛けている。GHの運営規程や重要事項説明書、利用契約書にも、この2項は明記し、都度職員にも自覚を促せるようにしている。	/	/	/	年2回、虐待防止やスピーチロックなどの研修を実施し、管理者等は職員の言動の見直しに力を入れている。また、研修時には、職員同士で考えるグループワークも取り入れている。さらに、コロナ禍において、ワクチン接種前には、Zoom機能を活用した研修の対応もしている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	毎日の引継ぎの際に、振り返りについても議題に設定して、意見等が出やすい機会を設けている。	/	/	/	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	◎	施設内を問わず虐待を発見した場合の行政機関への通報については、発見者の義務として職員に周知している。	/	/	◎	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	管理者やユニット長と連携しながら、職員の疲労やストレスも見落とさぬように心掛けている。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	グループの隔月のカンファレンス(全職員会)で、毎年度テーマとして取り上げ、グループ討議形式で自分たちの課題として共有に努めている。	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	身体的拘束の具体的な事例ややむを得ない場合の所要手続き等について、ユニット会でも計画的にテーマとして取り上げている。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施錠の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	◎	利用者の年齢が全員80歳以上で、利用者のほとんどが落ち着かされていることもあり、事業所としても利用者の安全確保のための身体的拘束については必要性はほとんどないと考えている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	○	一定の理解はできているものと考えている。当事業所に限ると、入居契約の段階で、将来にわたる所要経費や利用者の現金、通帳の保管方法等について、ご家族を含めて協議を行い一定の方向性を共有した上で、現金や通帳の管理希望があれば、契約の上、保管管理を行っている。	/	/	/	
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○	上記の状況から、当グループ利用者やご家族のニーズには対応できていると考えるが、ご希望があれば関係機関や専門の弁護士等の紹介を含め丁寧に対応したい。	/	/	/	
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	日頃の事業実施の中で、必要に応じてご協力をいただける状況にあるものと考えている。	/	/	/	
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	緊急時対応マニュアルを作成し、どの職員でも一定のレベルで対応できるようにしている。	/	/	/	
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	利用者の応急手当やAEDの操作訓練などを定期的実施している。	/	/	/	
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一步手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	事故発生防止指針により、グループ全体でヒヤリハットについても記録することとしており、毎月事故防止検討委員会において、当事業所からの委員2名も出席して、再発防止に向けた検討を行っている。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	危険と思ったことはすぐに職員間で話し合い解決するようにしている。	/	/	/	
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	苦情対応マニュアルを作成し、迅速な対応に努めている。なお、当グループでは、苦情相談は事業所にとって最重要案件の一つとしてとらえ、全事業所とも相談窓口は法人代表者とし、利用契約書や重要事項説明書にも明記している。	/	/	/	
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	苦情については、法人代表者が直接お聞きし迅速に所要の対応することにより、苦情申立て者からのご理解も得ているものと考え。おかげで、こしばらくは市町に相談・報告を要する案件はない状況にある。	/	/	/	
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	(同 上) 苦情対応に係る第三者委員の設置はできていない。営利法人(有限会社)のため地域の役員等の方々にとって特定の応援につながりかねないこともあり課題の一つとなっている。	/	/	/	
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	利用契約書や重要事項説明書に明記するほか、運営推進会議でも苦情受付制度や窓口の周知を行っている。また、日常生活の中で利用者の意見、要望の把握に努めている。	/	/	○	利用者の意見は、日々の会話の中で担当職員を中心に聞き取り、対応をしている。また、家族の面会時には職員が声をかけて聞き取り、「楽しそうにしている、助かっています」などの意見を聞くこともある。また、管理者は毎日の勤務終了時に職員一人ひとりと会話をするようにしており、表情をよく観察しながら気になることがあれば、別途話しや相談に応じることを心がけている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	(同 上) また、職員にも周知し苦情のあった場合には、法人代表者につなぐよう周知している。	○	/	○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	重要事項説明書に掲載の上、常時事業所内に掲出している。	/	/	/	
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	代表者は、頻繁に事業所にも足を運び、管理者及び職員との接触を図っている。グループ全体で職員数が60人を超える規模になり、代表者によるこれまでの直接管理方法をどう見直していくのが新たな課題と考える。	/	/	/	
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	グループの規模のメリットを利用者も享受できるようになるには、管理者への権限委譲や管理者間連携による管理者の能力や資質向上が不可欠と考える。その一つが部下職員の把握であり、各管理者なりの創意を期待している。	/	/	○	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	外部評価の結果を参考にして、ユニット会にて話し合いを行っている。	/	/	/	外部評価の訪問調査を昨年度予定していたが、コロナ禍において訪問調査が延期され、自己評価の見直しに取り組んでいる。外部評価の結果は、運営推進会議の中で報告するようにしている。また、家族へも外部評価の結果を文章で送付するとともに、普段の写真なども加えて報告している。さらに、利用者家族等アンケートから、サービス評価の取組みを理解されていない家族も窺えるため、簡潔にまとめた文章を添えて送付するなど、理解の促進に努めることを期待したい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	評価の結果、できていない事項の原因を解明し、学習テーマを決めて研修を行っている。	/	/	/	
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	事業所の年間目標を設定し、朝礼で唱和することで意識改善に努めている。	/	/	/	
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	運営推進会議時に報告し提示している。	x	○	○	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	ユニット会などで、話し合っている。	/	/	/	
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	災害ことへの対応について、マニュアルを作成し、事務室ロッカー常備している。	/	/	/	事業所では、災害対応マニュアルを整備し、事業所の裏山の土砂災害の可能性もあり、地区の避難所である中学校まで実際に行くなど、避難訓練に力をいれている。また、地域の避難訓練にも参加協力をしている。さらに、事業所では、食料や資機材などの備蓄品を用意することができている。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	県内外のコロナ発生施設の事例等から、グループホームの場合は、実質的には施設内対応が避けられない状況にある。このため、火災を起こさない、コロナを持ち込まない、地震の際は身を守り火元を点検することや、普段の取組みと訓練の重要性を職員間で認識しながら、計画的な訓練を心掛けている。	/	/	/	
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	定期的な確認や交換を行っている。	/	/	/	
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	火災関係訓練では、消防署の立会を依頼し、消火器の扱いや避難訓練についての講習も仰いでいる。	△	x	○	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	従来から地域の訓練には、極力参加をしている。コロナ禍克服後は再開したい。	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	△	運営推進会議で地域の方々に認知症に関する理解と対応について情報を提供している。一昨年には、公民館で認知症に関する講習会(認知症サポーター養成講座)を行い、地域の方々に認知症に対する理解を深めてもらう機会を設けた。今年度は開催を自粛し、文書による事業所の現状報告で代替している。	/	/	/	地域住民から相談が寄せられた場合には、快く見学を含めた対応をしている。事業所が行うイベントには、地域住民等の参加協力を得て開催することも多い。また、現在のコロナ禍において、イベントなどの開催はできていないものの、コロナ禍以前は中学校の職場体験を受け入れるなど、地域の福祉の拠点として認識されている。さらに、技能実習生を受け入れにも協力している。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	施設見学等のご希望などがあれば、率先して対応している。	/	x	○	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	x	今年度は、コロナを持ち込まないため、施設内への立入りは原則としてお断りしている。	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	◎	実習の受け入れ等は積極的に協力している。今年は中止となりました。	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	◎	法人幹部も地元自治会の役員を務めており、地域とともにありたいと願っている。	/	/	◎	

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I. その人らしい暮らしを支える

(1) ケアマネジメント

(2) 日々の支援

(3) 生活環境づくり

(4) 健康を維持するための支援

II. 家族との支え合い

III. 地域との支え合い

IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
“愛媛県地域密着型サービス評価”

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 3 年 8 月 12 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 8名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	4名	

※事業所記入

事業所番号	3870104720
事業所名	グループホームひがし野
(ユニット名)	2階こすもす
記入者(管理者)	
氏名	辻田 美樹
自己評価作成日	令和 3 年 1 月 18 日

(別表第1の2)

<p>【事業所理念】</p> <p>「誠心誠意」</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p> <p>○介護技術の向上では、今年はコロナの影響で外部研修の参加ができていませんでしたが、ベテラン職員がOJTにて指導してもらっています。コロナが収まったら、外部研修にも積極的に参加してもらおうと思っています。</p> <p>○また、気づいたことを報告・連絡・相談して助け合って仕事をする、という目標は、年間目標にも掲げ、職員全員で取り組みました。FTケアという記録がありますが、チェックできていない職員もあり、口頭での申し送りもやり、漏れのないように心がけています。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>開設16年目を迎える事業所は、みかん山などを見渡す閑静な住宅地に立地している。事業所では、地域の関係機関など密接な関係性を築き、地域の中で利用者が事業所周辺に住む住民と様々な交流を深めている。また、管理者や職員は、利用者に入居前の生活習慣や、入居後も興味や習慣などが継続できるよう配慮するほか、様々な要望を聞き取り工夫しながら実現できるよう努めている。また、動画配信を活用した研修なども取り入れ、職員のレベルアップを図るとともに、協力医療機関の協力を得ながら看取りケアや口腔ケアを実践している。さらに、事業所では、新たに介護記録等のシステムを導入し、日々のケアを集積するとともに、職員間で随時検討しながら、利用者視点に立ったサービスの質の向上にも取り組んでいる。</p>
------------------------------	---	--

評価結果表

【実施状況の評価】

◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I. その人らしい暮らしを支える									
(1) ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	利用者全員が80歳以上(事業所の平均年齢90歳)で、移りの年代を迎えられており、一人ひとりのこれまでの人生や意向、希望に沿った支援こそが、今の充実した生活につながると思いで、把握に努めている。当グループホームは、グループで最初に開設した事業所でもあり、現理念の一つである「利用者様を人生の先輩として尊敬し、その人らしい生活を提供します。」は、その運営を通じて理念としたものでもある。ただし、把握した情報がこれまでは個別ファイルでの保存にとどまっていたことから、今回の外部評価を契機に職員がタブレットでも随時確認できるようにした。	○	/	○	
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	△	介護度や自立度等により、把握の困難な利用者については、表情や態度などから職員が得た気づきをカンファレンスで共有したり、FT(=社内LAN)を通じて記録することで、支援のレベルをあげていきたいと考えている。	/	/	/	日々の関わりの中で、職員は利用者から思いや意向などを聞き取るほか、家族からは、入所時や面会時に意向などを聞き取っている。また、利用者の思い出を語り合ってもらう回想法レクリエーションを取り入れ、情報を把握することもある。さらに、事業所では新たに介護記録等のシステムを導入し、タブレット端末を活用しながら思いや意向の共有や把握に努めている。
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	△	入居前の生活歴等の聞き取りや、在宅支援専門員からの提供情報等により把握に努めるとともに、ご自宅使われていた家具やご仏壇、身の回りの物を居室に持ち込んでもらうことにより、できるだけ慣れ親しんだ環境が継続できるよう配慮している。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	FTのフェイスシートを活用して、入居前の生活について共有化を図った。今後、内容の充実を目指したい。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	よりそいや傾聴を心がけることで、思い込みや見落としは少なくなっているものと思われるが、まだまだ課題は多い。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	入居時の主要確認項目の一つとして把握に努めている。ご家族等の来所による面会等の際にも、随時把握を行っているが、こしばらくはコロナ対策最優先で実行に至っていない。	/	/	○	
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	職員が利用者と一緒に手伝いやレクリエーションなど、生活の中で把握に努めている。	/	/	/	入居時等に、「入所者様のことを知ろう」シートを活用して、職員は利用者や家族から生活歴などの聞き取りをしている。入居後も、日々の関わりの中で、利用者から新たな情報を聞き取っている。また、24時間の生活状況についても、把握して記録に残している。
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	◎	職員間での情報交換や、主治医や協力医療機関、過去の支援機関等からの情報等により把握している。	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	○	毎朝のバイタル測定や排せつ、入浴支援等の際に定常的な把握に努めるとともに、普段見られない行動や表情の見られる利用者には、職員で連携して見守りや傾聴し、気持ちの寄り添いに努めている。	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	介護計画にて24時間の生活の流れや、FTの介護記録で把握している。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント (※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	月2回のカンファレンスで、ユニットごとに担当者を含めて検討し、状況に応じて次回介護計画の変更にも反映している。	/	/	○	事業所では、「入所者様のことを知ろう」シートを活用しながら、日々の関わりの中で得られた情報のほか、かかりつけ医や協力医療機関のアセスメント情報も踏まえて、カンファレンスの中で利用者本人の思いを含めて、関係者でより良いサービス提供を検討している。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	事業所横断での毎月1回の管理職会、年1回の同宿研修、各月開催の全職員会を通じて、介護の役割や利用者個々の支援等についても掘り下げて議論する時間を設け、チーム力向上を目指している。	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	ユニット会で、各利用者に関する個別の課題解決策の検討に努めている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	事業所の管理者としては、それなりの計画になっているものと考ええる。	/	/	/	入居時に、職員は利用者や家族から意向を聞くほか、面会時や電話連絡時を活用して家族から計画に関する意見をもらっている。また、利用者や家族、関係者の意見を踏まえて、ユニット会等で話し合い、計画作成担当者を中心に介護計画を作成している。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	△	入居時や家族への状況報告時に家族の意見を取り入れるようにしている。	○	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	重度化された方に合わせた支援計画を立てて実施している。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	支援者としては歯がゆいが、事業所外の方々との接触は難しいことから、広報誌の送付等での精神的支援をお願いする程度にとどまっている。	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	△	当事業所は、認知症対応型施設であり、全員が80歳を超えるなど利用者に通ずる支援を踏まえながら、晩年に当たる豊かな人生をどう支えるか、職員間で模索しながら進めている。	/	/	○	利用者に関するアセスメント情報や介護計画は、新たに導入した介護記録等のシステムを活用し、職員はパソコンやタブレットでいつでも確認し、情報共有できるようになっている。また、日々の関わりの中で得られた利用者の様子等の記録も入力され、職員間で共有されている。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	支援の状況については、タブレットを活用して随時入力し、引継事項を含めて職員で共有している。	/	/	○	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	記録の内容や分量については、時間帯や職員間でバラツキがみられることから、PDCAサイクルの要領で職員の意識づけを行っている。	/	/	○	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	◎	申し送り事項の記録時等に、各職員の気づきも記録するよう申し合わせている。	/	/	○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	6か月を目安に定期的に見直しを行っている。	/	/	◎	6か月に1回を基本として、介護計画の見直しをしている。状況の変化がある場合には、適宜計画の見直しをしている。また、計画の見直し時など定期的に利用者の現状は確認できているものの、毎月までは十分な現状確認まではできていない。今後は、利用者の現状や介護計画の達成状況が分かるような様式に工夫するなど、職員間で検討することを期待したい。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	△	6か月間で、計画的に各利用者の課題と対応策を協議検討しており、適宜ユニット会で現状確認を行っている。	/	/	△	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	介護度や自立度の状態変化が生じた場合等には、家族に連絡や相談をしながら変更を行うこととしている。	/	/	○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	利用者の安全やプライバシーに配慮しながら、極力その場での解決を目指した協議を行っている。	/	/	○	毎月カンファレンスを実施し、利用者の介護計画に関して検討をしている。また、ユニット会で話し合うほか、緊急案件のある場合にはその日の出勤職員で随時話し合い、利用者への関わりを検討している。また、参加できなかった職員には、議事録等を確認してもらい、共有をしている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	毎回、参加職員全員が、事業所の年間目標である「皆な笑顔！元気！ヤル気で今日もチャレンジ」の精神で臨んでいる。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	△	グループ全体の職員会議については、時間外に、超過勤務対応で毎回2時間を目安に開催している。パート職員や子育て世代の職員もいることから義務化までは行っていない。	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	毎回、記録係を設け、開催結果を周知している。	/	/	○	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	結果記録によっては、FTに掲載し他職員も閲覧可能としている。	/	/	○	カンファレンスやユニット会の記録などは、新たに導入した介護記録等のシステムを活用して情報共有をすることができる。また、介護記録等のシステムを活用して、申し送り等も実施できている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	FTによる申し送りが定着してきた。職員での共有や後日の再確認等で有効性が高い。一方で書き言葉の短所もあり、その長短等を職員が互いに理解するための努力も必要になっている。	○	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にした支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	コロナの影響で利用者の活動場所が限定される中で、何とか充実した時間を過ごしてもらおうと考え、まずは、利用者の話や思いを聞くことから始まることになる。	/	/	/	着る服や日中の活動を選ぶなど、職員は生活の中で利用者が選択できることは、全て選んでもらえるよう努めている。また、日々の生活の中で、体操や散歩、レクリエーションなど、利用者のやりたいことに参加してもらっている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	洗顔用のタオル選び、散歩の参加不参加、服選び、塗り絵での色選び、何から食べるかなど、選択の機会は生活や活動の中にたくさんあることから、利用者自身でできることは見守り、自立支援を行っている。	/	/	○	
		c	利用者が思いや希望を表現できるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	△	利用者には恥ずかしがりや、目立ちたがりやなど性格の違い、理解力、年齢や体調等によりその時々での変化もあり、それらを常に把握しながら、臨機応変の支援を行うにはまだまだ課題も多い。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	△	基本の時間割をベースにしながらも、入浴の時間帯や所要時間、回数など極力利用者の意向に沿った対応になるよう心掛けている。ただし、時に他利用者支援の都合などで待ってもらう場合もある。	/	/	/	
		e	利用者の活き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉かけや雰囲気づくりをしている。	◎	年間目標の「皆な笑顔」を利用者にも広げるべく、笑いや、笑顔、リラクスのための言葉かけを行っている。	/	/	○	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	認知症対応型の事業所として、そうした中での対応を期待されているものと努めている。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	食事や入浴、排せつやその失敗時の介助等、生存欲求レベルの支援を行いながら、同時に個人のニーズに合わせた自己実現レベルの支援も期待される介護職員や事業所としてあるべき姿(理想)を考えるとまだまだハードルは高い。	○	◎	○	事業所では新入職員に対して、利用者の尊厳に関する研修を実施している。居室を訪れる際には、職員がノックと声かけを行うことでプライバシーを守り、入室することができている。また、日常生活の中でも、利用者に配慮したさりげない声かけをすることができている。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉かけや対応を行っている。	○	介護を職場として選んでいる職員は、基本的にやさしい。助けがほしいという思いでやりすぎになったり、けがをさせてはと消極的になったりすることがある。職員の入れ替わりもある中で、見守りや声かけのノウハウをどう継承するかも課題である。	/	/	○	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	排せつと入浴の介助は、介護事業所の基本の支援項目であり、利用者の誇りを傷つけないように特に留意して声掛けや環境整備に努めている。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	◎	コロナ対策の影響で、共通スペースで利用者が過ごす時間が長くなり、その結果居室への出入りは利用者の視線を受けながら行うことが多くなっている。このため声掛けとその了解(反応)の確認を毎回欠かせないことを申し合わせて実施している。	/	/	◎	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	職員採用時の説明のほか、就業規則や運営規程、重要事項説明書にも明記しており、職員も当然の遵守事項としての自覚を有しているものとする。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者にも助けをもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	常日頃から互いに感謝の言葉がよく交わされている。	/	/	/	認知症状の進行など、利用者間のトラブルが起こらないように、職員は早めの対応を心がけている。以前には、利用者のユニット変更を行い、対応をしたこともある。また、職員は利用者同士が楽しく会話できるように声かけをしたり、利用者の話を傾聴したりしている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	看取りまでお世話する覚悟で利用者をお預かりしている事業所として、利用者の皆さんも自覚をされているようで、利用者相互での助け合い、譲り合いの気持ちをよく感じる。時に利用者間で相性等の合わない場合には、本人の了解も得てユニット変更等で対応している。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったら孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者同士が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらった場面をつくる等)。	○	事業所としても開設後10年が経過し、こうした場合の対応について職員にも利用者の側にもある程度の対応力が備わっていると考える。特に外出もままならない中では、イライラや発散の機会も必要であり、そうした場合には、皆で一緒に大声を出したり笑い声を出したり、試行している。	/	/	○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	利用者個々の思いの尊重は、必然的に他利用者とはぶつかる部分を生じることにもなり、利用者間での譲り合いも不可欠になる。そうした関係性をどう理解してもらい、職員が間に入り、傾聴し落ち着いていただいている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	△	入居時に収集した情報をFTで共有し、支援の必要に応じて確認しながら活用している。ただし、利用者を取り巻く人間関係の情報については、本人からの聞き取りには期待できず入居までに収集できたものが主とならざるを得ないため、情報量としては限られたものとなっている。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	△	利用開始前の状況については、一定の把握はできているものと考え、コロナの対策期間が長期化しているだけにこの間の地域との関係づくりや馴染みの場所づくりなどはできていない。	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	×	利用者の命を守ることを最優先に、外部の方との接触が極力ない状態を確保しており、この項目は実施できていない。	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	×	行政機関による発令事項等に対応して、ご家族でも面会をお断りしたり、ガラス越しでの携帯電話利用に限ったりしている状況にあり、この項目も実現できていない。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	上記の状況下で、利用者の希望に添ったお出かけはできていない。ただし、事業所の今年度の目標に「皆で外出しよう」を掲げ、天気や気温に応じて、できるだけ中庭や散歩に出かける機会を設けている。	○	○	○	現在のコロナ禍において、事業所では利用者の健康管理を優先し、外部との接触等を控えていることもあり、外出できる機会は減少している。毎年、家族と一緒に県外へのバス旅行に出かけていたが、現在は中止している。家族と天気の良い日は、事象所周辺の散歩をしたり、外に出て外気浴をしたりしながら、利用者の気分転換を図っている。また、車いすの利用者も庭に出て、外気浴を楽しむことができています。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	できていない。	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	中庭ですごせる機会は随時設けている。	/	/	○	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	△	コロナ対策を実施している農園の協力を得て、今年5月に「いちご狩り」を実施した。回数は限られることになるが、今後も利用者の希望を確認しながら万全の対策の上、こうした機会を設けたい。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	動画研修を行っている。ユニット会のとき、担当者が利用者の状態や変化、症状を発表し、ケア方法を考えている。	/	/	/	日常生活の場面において、職員がすぐに介助をすることなく、少し見守りをしながら、できることは利用者自身でもらうよう取り組んでいる。また、日頃から口腔ケアやリハビリ体操、散歩をしたり、家事などの生活リハビリを取り入れたりしながら、利用者の心身機能の維持に努めている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	会社全体では60歳代の職員も多く、認知症に限らず、年齢による身体面の機能低下は避けられないことや、それでも体を動かしていることと一定の機能は維持できることを共有している。そうしたこともあり、生活リハビリを通じて機能訓練を重視するとともに職員の定期的な異動により、支援レベルの維持向上を図っている。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	優しく、気の付く職員が多いだけに、やりすぎないように、安全の確保をしながらの見守りを優先するよう申し合わせている。	○	/	○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	△	お盆を拭いたり物を干したりする役割を利用者に引き受けてもらい、着手時の声かけや完了時のねぎらいの言葉がけを行っている。各利用者のやる気や実践をどこまで引き出せるか、個々の職員にとっても能力向上が求められている。	/	/	/	編み物やピアノ演奏、塗り絵など、利用者のできることをしてもらい、職員は出番づくりを意識した支援をしている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	日々の生活支援や活動支援の中で身掛けている。	○	◎	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	○	月1回東山神社の清掃を行っている。今年はほとんど中止となっているが、地域の行事にも参加している。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つと捉え、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	大半が女性の利用者であることもあり、各利用者らしい服装や身だしなみの支援に努めている。	/	/	/	乳液や口紅を塗るなど、職員は身だしなみを整える準備をするともに、利用者に声かけをしている。また、衣服などの乱れが見られる場合には、職員がさりげなく利用者のズボンなどを直したり、ゆったりめで脱着がしやすいズボンを履いてもらったりするなどの工夫をしている。さらに、訪問理容を活用して定期的に髪型を整えることで、重度の利用者もおしゃれを楽しめるよう支援している。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	○	各利用者のお気に入りの服や髪形を把握したり、希望の小物など購入できるよう支援を行っている。	/	/	/	
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	たとえば二つの服を並べて選んでもらうなど、個々の利用者に応じた支援を心がけている。	/	/	/	
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しむよう支援している。	○	季節に応じて収納場所を変更しその季節に合った服や品物を取り出しやすい場所にするなどなどの支援を行っている。	/	/	/	
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	利用者が恥をかかないような配慮も心掛けている。	○	○	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	×	散髪や髪染めについては出張サービスの得られる事業者に限られる。ただし、利用者の希望にあったカットやカラーリングなどの協力を得ている。	/	/	/	
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	△	訪問カットにて、寝たきりの方も散髪できるようにしている。	/	/	○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	食事は、生存のためだけでなく、自己実現といった高いレベルの欲求の実現も含めているいろいろな可能性を秘めたものといった理解は、職員とも共有できているものと考えている。	/	/	/	事業所には、共有スペースの横に台所があり、利用者の目の前で食事の準備を行い、匂いや音などで食事の雰囲気を感じてもらうとともに、音楽を流すなどの対応もできている。下ごしらえや調理、盛り付け、食器洗い、台拭きなど、利用者と一緒に食事の意識を高める手伝いをしてもらっている。また、献立は利用者の好きな物などの意見を聞くほか、医師や歯科医師から、塩分や低栄養などの意見も取り入れながら、朝食は職員が作れる物を調理している。昼食と夕食は、外注業者が対応し、事業所で盛り付けなどを行っている。利用者の状態に応じて、きざみやおかゆなどの食の形態にも対応している。また、現在のコロナ禍や働き方改革での休憩時間等の調整のため、利用者と一緒に食事をしておらず、見守りや必要な介助をしている。さらに、職員は利用者とは別の場所で食事を摂っているため、コロナ禍の終息後には、一緒に「いただきます」などの挨拶をしたり、一部の職員が順番に食卓を囲むなど、食事を一緒に楽しみながら食べるよう雰囲気づくりをしたりするなど、職員間で検討することを期待したい。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	GHで調理をしている朝食の献立や、昼食と夕食を含めた盛り付けや食器並べ、後片付けなどは、利用者との協働を心掛けている。	/	/	○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	△	協力可能な利用者に限られるが、役割の一つとして、お汁づくりやおやぶりの分担をしている。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	把握の上、外注先にも特にアレルギー関連の材料は使用しないよう依頼している。	/	/	/	
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔ながらの味を取り入れている。	○	朝食には、季節のものを取り入れるなど心掛けている。食事の感想やメニューについては利用者からも毎月聞き取りを行い、外注先に協力を依頼している。	/	/	○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法として、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	昼食と夕食についても、配膳の際に、個々の利用者の状況に応じて、刻みを入れるなどの対応を行っている。特に、生活や活動の場が限定される利用者だけに、食事や食事の時間帯は大切なものであり、楽しく食べられることを心掛けている。	/	/	/	
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	居宅での生活の延長として利用者本人の思い入れにも配慮し自分の使用していたものを持ってきてもらっている。	/	/	◎	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	△	食事の職員による見守りなどできるだけ配慮は行っている。ただし、コロナ感染対策や職員の休憩時間調整の都合上、食卓を囲んでの一緒に食事についてはできていないため今後の課題となる。	/	/	△	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わかるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	雰囲気づくりなどできるだけ配慮は行っているが、昼食と夕食は調理を委託しているため、実現できているかは他者の判断を待ちたい。	○	/	○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	◎	FTも活用して、毎回の摂取量を記録し、傾向等も把握することにより次回の食事に反映するよう取り組んでいる。	/	/	/	
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	(同上)	/	/	/	
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	食事の都度、献立に関する職員の意見や利用者の摂食状況等について外注先に情報提供を行うとともに、利用者ごとに医療の専門的アドバイスを受けて、食事量の調整等を行っている。	/	/	○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	従来からの厨房や食堂の衛生管理に加えて、6月から改正食品衛生法に対応した衛生管理の見える化にグループ全体で取り組んでいる。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	食後の声掛けにて口腔ケアは定着しており、自分でできない箇所は職員が介助している。	/	/	/	職員は研修を受け、口腔ケアの重要性を理解している。毎食後に、職員は声をかけ、利用者は洗面所で歯磨きなどを行い、磨き残しなどの確認やできない部分の介助をしている。また、定期的に歯科衛生士の訪問による指導や、歯科医の診察があり、利用者の口腔内の状況を確認することができている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	◎	週1回歯科衛生士に診てもらい、指導を受けている。	/	/	◎	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	(同上)	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	夜間に義歯をはずして洗浄し、毎日の清潔保持に努めている。	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	◎	歯は、健康で長生きしてもらうための必須のものであり、その手入れも本人がしっかりとできることが最善と考える。職員ともこのことを共有しながら、歯の管理支援を心がけている。	/	/	◎	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	◎	(同上)	/	/	/	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	排せつの支援は、10-cのとおり、介護事業所としての基本支援項目の一つであり、左記の理解は全職員ができていものと考える。	/	/	/	事業所では、利用者の24時間の排泄リズムを把握し、職員は声かけや誘導をしながら、トイレでの排泄ができるよう心がけて支援している。布パンツで生活できている利用者があるものの、紙パンツを使用している利用者も多い。また、便秘状態の対応として、職員は利用者の水分摂取に加えて、ヨーグルトや食物繊維の摂取を心がけ、スムーズな排泄ができるよう努めている。さらに、利用者の状態をユニット会などで話し合い、必要に応じて適切な排泄用品を使用している。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	便秘一般についての理解はできているものとする。	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	各利用者の状況の一定の把握はできている。	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	各利用者の状況に合わせた支援を心がけている。	◎	/	○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	調子のいい排せつの際の爽快感は万人共通と考える。利用者にはこの爽快感を感じてもらえるよう、日々の運動や睡眠、食事等全般の支援から、パットの種類やトイレ誘導の回数等を含めて検討している。	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	こまめなトイレ誘導を心掛けている。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	△	話し合いの結果、希望をされない場合には、その希望に添って支援を行っている。	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	利用者については、尿量や体調に合わせて、使い分けている。	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	水分摂取をしっかり行い、ヨーグルト等乳製品や繊維の多い食材の利用、トイレ使用時の時間もゆとりが取れるようにしている。	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	○	利用者の習慣を把握しその日の希望や体調に合わせた入浴の介護を心掛けている。	◎	/	○	利用者は、週2回入浴することができる。職員は利用者一人ひとりのタイミングを考えて、声かけや誘導をしながら、気持ちの良い入浴ができるよう努めている。また、自身で洗えるところは行ってもらい、職員は洗えていない部分などの介助をしている。1階の浴室には、スライド式のリフト浴もあり、利用者の状態に合わせて、安心安全な入浴も支援している。さらに、入浴を拒否する利用者には様子を見て、試行錯誤しながら入浴してもらえよう工夫している。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	○	入浴時には声かけを行い、リラックスした雰囲気づくりを心掛けている。	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	利用者にはできることは、安全の確保をしながら、取り入れるようにしている。	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ちよく入浴できるよう工夫している。	△	入浴を拒否される場合には、一度様子を見る。拒否が続く場合、部分浴や清拭に切り替える。体調不良と考えられる場合には、看護師や協力医療機関に連絡を行う。	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	事前、事後の観察は欠かさず行い、結果はFTIに記録している。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	夜間の見回りや翌朝の状況観察、本人からの聞き取り等により、その日の睡眠の状況と合わせて、睡眠パターンについても把握している。	/	/	/	事業所では、睡眠導入剤や安定剤など、なるべく頼らないような支援に取り組んでいる。日中には、レクリエーションや体操の活動提供を行うなど、利用者を楽しみを見つけて活動してもらい、夜間に利用者が安眠ができるよう取り組んでいる。また、昼寝などを取り入れるとともに、不眠の利用者には体調面を考え、医師に相談しながら対応をしている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	日中の生活や活動の支援を通じて、安眠の確保を目指すとともに、不眠の訴えに対しては、申し送りの上、リラックスや笑いの支援に合わせて原因把握のための観察に努めている。	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	現在のところ、睡剤利用者はいない。該当者のいる場合には、夜間の過ごし方など状態に合わせて、医師と相談しながら調整を行っている。(1Fなのは0人)	/	/	○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	居室はすべてユニット式の個室で、日課としても休憩や昼寝の可能な時間設定を行っている。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	先方に事情の無い限りは、希望に応じて自由に連絡が取れるように支援している。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	×	利用者全員が80歳を超え、読み書きの能力低下とともに、利用者の中には電話や手紙の送り先がなくなった方も出てきている。そうした利用者の心情を考えると、手紙や電話は共通の話題や目標としては取り上げがたい状況にある。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。(携帯保持者 0人)	○	電話については、利用者が思い思いに対応できるよう配慮している。(1Fなのは0人)	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	△	事例は限られるが、届いた場合には、すぐに本人にお渡しし、希望があれば音読等の支援を行っている。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	×	上記bに記載した状況もあり、家族等への依頼までは行っていない。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。(18人中 自己管理者 人、一部管理 人)	×	自己管理できる方には必要な日用品や嗜好品が買える程度のお金をお小遣いとして渡している。そうでない方は職員が管理し、毎日の買物時に希望を聞くなどと一緒に購入できるように支援してきた。コロナで使用部分は中断中。	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	×	コロナ以前には、定期的な買い物訓練やお出かけの際に、それぞれ財布を持参して買い物を楽しんでもらっていた。	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	×	自由な外出再開後のご協力をお願いしている。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	△	お金を所持できたり、使える利用者には、できるだけ使ってもらえるよう、無理強いや押しつけにならない範囲で支援を行っている。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話合っている。	○	管理を希望される場合には、管理規程に基づいて契約の上、原因や印鑑等の管理を行っている。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	◎	管理ができなくなってきた利用者については、管理規程に基づいてご家族にも協力を仰ぎ、契約を結んだ上で、事業所で管理を行っている。使用状況は、毎月レシートの写しと合わせてご家族に報告している。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	ご希望により看取りまでお世話する覚悟でお引き受けしており、その中で発生するお困りごとの解消等についても、極力お応えできるよう掛けている。具体的な実績は限られるかもしれないが、これまでこうした意識で取り組んできている。	◎	/	○	現在のコロナ禍において、外出や面会制限が設けられているため、外出などの要望に対応できない場合があるが、可能な限り対応に努めている。コロナ禍以前は、担当職員が利用者の希望を聞き取り、自宅への外出やお墓参り、外食など、一人ひとりのニーズにできるだけ対応することができていた。

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
(3) 生活環境づくり										
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	玄関や門周りは、一般家庭をイメージする設えとしている。椅子などを置いて、くつろげる雰囲気になるように工夫している。	○	◎	○	玄関周りには草木が植えられているほか、ベンチが設置されている。事業所前では金魚が飼育され、家庭的な雰囲気、親しみも感じられる。	
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	◎	季節に合った飾りを置いたり雨の日には洗濯物をリビングに干すなど、日々の変化を感じられるように支援している。照明の明るさや冷暖房、テレビの音量などは利用者の意見を聞きながら調整している。	○	○	◎	共用スペースには、季節の飾りつけをしているほか、昔の電話やラジオなどが置かれている。電子ピアノも置かれ、弾き慣れた利用者が演奏しながら、他の利用者と一緒に歌を歌うこともある。利用者はソファや食堂のいすに座るなど、思い思いの場所で過ごすことができる。また、新たな利用者の入居時には、ウェルカムボードを作成し、利用者から感激されたこともある。さらに、トイレ等の臭い対策として、消臭剤などを使用している。	
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	使用の都度、また定期的に清掃を実施している。ただし、トイレは使用後の臭いが気になるときがある。	/	/	/		○
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	建物の周囲は緑に恵まれており、その景色を窓から取り入れたり、季節に合わせた額や花を飾ったりしている。	/	/	/		○
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	◎	リビングとダイニングを一体とし、広めでバリアフリーの通路で、居室とつながっているため、利用者には居室を含めて思い思いの場所で過ごしてもらっている。	/	/	/		/
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	◎	トイレ、浴室ともに、入り口が目立たない構造で、内部も外からは直接見えない構造としている。	/	/	/		/
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	◎	家具は使い慣れた物を自由に持ってきてもらっている。可能であればご本人と相談しながら使いやすい配置にしている。	○	/	○	居室には、ベッドやエアコン、収納が備えつけられている。利用者は、仏壇やソファ、テレビなどを持ち込むほか、写真を飾るなど、くつろげる空間づくりができています。	
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	掲示板にお知らせや日課を掲出し、利用者がそれぞれで判断できたり、動線を工夫して、運動量を確保するなど可能な範囲で工夫をしている。	/	/	○	居室やトイレ、浴室は、分かりやすく表示されている。また、数種類の新聞や雑誌を、利用者が自由に手に取れるよう配置するなど、活動意欲を引き出す環境がつけられている。	
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	バリアフリー化や、見やすい表示、通路部分にはものを置かない、事故やヒヤリハットの経験を生かすなど可能な範囲で工夫をしている。	/	/	/		
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	△	点数は限られるが、今は見かけないミシンや駄菓子屋で売っていた品物など、利用者の記憶を喚起する品物も配置している。	/	/	/		
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	設問の「玄関」が、ユニットの出入り口を兼ねた玄関を指すのか、建物全体の玄関も含むのかが明確でないものの、昨今一般家庭でも門や玄関は日中も施錠し、来客時に開錠することが一般化していることを考えると、ここでの玄関は、上記に限られるものとして以下の自己評価を行った。当事業所では、利用者の行動を直接的に制限することになる居室やユニットの出入り口の施錠は行っていない。ただし、玄関と門には、近隣の一般家庭と同様に、防犯上から施錠し、来客時には直ぐに職員が対応するとともに、利用者が外出を希望する際には、開閉を行っている。	x	◎	○	現在のコロナ禍の外出や面会制限や、防犯や安全面を考え、家族等の理解を得て、玄関は施錠している。家族の来訪時には、インターフォンを鳴らしてもらい、一般家庭と同様の対応をしている。また、事業所では、玄関の内戸にセンサーを取り付け、センサー音を確認しながら利用者が屋外に出ようとするものに対して、積極的な外出対応をしている。また、居室のドアは利用者の希望に応じて、開閉の対応をしている。	
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	居室やユニットの玄関には鍵をかけないこと、及び玄関には防犯の都合から鍵をかけることについて、ご家族の理解を得ている。	/	/	/		
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	ユニットの入り口を兼ねない当事業所の「玄関」の施錠については、一般家庭の動向と同様に、不審者対策を含む防犯上の観点から今後も通常は施錠し、来客時や利用者の希望に応じて随時開け締めすることで対応したい。また、この対応については、コロナ終息後の運営推進会議等で、地域の参加者からのご意見等も伺いたい。	/	/	/		

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	利用者の病歴等について、タブレットでも随時確認ができるようにしている。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	気が付いたことは、タブレット利用により随時記録するとともに、他職員も随時閲覧可能となっている。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等についても気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	普段に往診の受けられる医療機関及び入院の可能な医療機関との協力医療機関契約を結んでおり、随時、利用者の状況に応じた協力を受けている。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	往診診療の受けられる医療機関と協力医療機関契約を結んでいる。その上で、日常の気つきは都度自社の看護師に伝えとともに、必要に応じて医療機関への受診につなげている。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	入居前からの利用者の主治医との関係も大切にしながら、利用者やご家族の意向を尊重して必要な治療が受けられるように支援している。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	契約協力医療機関の医師にも加わってもらい、利用者やご家族との話せる機会を設けている。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	入院治療を受けられる医療機関と協力医療機関契約が結んでいる。このため、必要に応じた入院や円滑な情報交換が行えているものと考えられる。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	最近の入院事例では、術後のリハビリの状況等についての医療機関からの情報提供を受けて、退院後の支援につなげている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	△	入院治療を受けられる協力医療機関との関係は、利用者を介した関係が主であり、入院を要する利用者が長期間ない場合には、情報交換が滞る状況にある。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気つきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	看護師は、利用者支援には不可欠な状況であり、現在グループとしては6人の看護師(准看護師を含む。)が勤務している。そのうえで看護師には、できるだけ全事業所の利用者の把握ができるよう、比較的短期間での異動や業務発令を行うとともに、有事の際には、24時間いずれかの看護師の連携がとれる体制としている。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	a 及び31-a に同じ				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	(同上)				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	◎	入居者の記録ケースからすぐに何の薬が処方されているのかを把握し、病状の変化にも対応できるようにしている。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	内服薬の管理は、利用者との療養管理契約を締結している薬局の職員が行っている。その上で、服薬支援は職員が行っている。服薬支援時には、複数の職員でチェックを行い、内服後は声出し確認を行っている。飲み残しやご服用の疑いの出た場合には、都度看護師や協力医療機関に連絡し利用者の安全確保に努めるとともに、事故防止委員会に報告し再発防止に努めている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	△	服薬後の様子を観察するとともに、協力医療機関の医師による往診の際に、職員が立ち会い、気付いたことは伝えるようにしている。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	◎	上記の服薬との因果関係の確認までは至っていないが、利用者の体調等に何らかの異常が見られた場合には、看護師や医療機関に連絡するとともに、事業所内で記録を共有している。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	看取りに関する指針を策定し、入居時の重要事項説明書で概要説明を行うとともに、状態変化時等に、利用者やご家族が看取りを希望されるときには、ご家族と医療機関の医師を交えて看取りについての確認書を取り交わした上で、支援を実施している。	/	/	/	事業所では、「看取りに関する指針」を整備し、入所時に利用者や家族に説明するほか、急変時等には医師等を交えて話し合い、意向を確認している。定期的に看取り介護等の職員研修も実施している。また、事業所では、訪問診療医の協力が得られ、支援体制が整っているほか、夜間の緊急時には管理者等がかけつけてくれ、職員は安心感がある。さらに、看取り介護の後には、家族や職員の精神面にも配慮し、フォローをしている。	
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	◎ (同上)		○		◎		
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	◎	看取りは、職員にとっても重い支援であり、力量も要することから、経験者を含めた体制をとることとしている。	/	/	/		/
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	◎	看取りに関する指針に明記し、医師の立会も得て、説明や確認を行っている。	/	/	/		/
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	◎	看取りの際にも、医療機関への入院を希望される場合には、医療機関での受入れや、その場合でも再入居も可能であることなどについて、医療連携項目としている。	/	/	/		/
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	◎	ご家族とのこまめな連絡を通じて支援を行うこととしている。	/	/	/		/
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	◎	グループで事故防止検討委員会を立ち上げ、年間を通じて学んでいる。委員会の結果はFTを通じて共有している。	/	/	/		
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	◎	感染対策マニュアルを整備し、手順を確認できるようにしている。	/	/	/		
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入力し、取り入れている。	◎	松山市からのコロナ感染に係るメール確認を行っている。また、コロナ対策も兼ねて、知事や松山市長の会見は確認し、事業に関係する動きがあった場合には、法人代表者からのお知らせとしてFTを通じて、注意喚起や指示を行っている。また、職員にも県及び松山市のラインへの登録を勧めている。	/	/	/		
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	◎	面会や業者の出入りの制限など、状況に合わせて対応している。	/	/	/		
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	コロナ対策もあり、職員の手洗い、手指消毒、うがいを徹底している。利用者や来訪者にも検温、手指消毒の協力を得ている。	/	/	/		

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	◎	来所時や毎月の報告などでコミュニケーションを図り、利用者の状況と課題を共有することによりで共により良い支援が行えるように努めている。	/	/	/	事業所の夏祭りや餅つきなどの行事に、家族に声をかけて参加協力をしてもらうことができている。毎年、家族と一緒に県外へのバス旅行等に出かけることができていたが、現在のコロナ禍において、家族に呼びかけた行事の開催は中止している。コロナ禍においても、窓越しでの家族の面会には対応している。面会時には職員から家族に声をかけて意見や要望を聞いていたが、直接会って話をする機会は減っているものの、事業所では、毎月担当職員が便りを作成し、利用者の様子のコメントなどを記載するとともに、写真を添えて送付している。また、動画を家族に送付するなどの工夫をし、利用者の近況を分かりやすく伝えている。また、事業所の運営状況も全ての家族に伝えることができている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	◎	現在は面会を制限しているが、従来は毎週来所され外出される方もいる。家族訪問時には、湯茶をお出しし、居室でゆっくり会話してもらっている。	/	/	/	
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	バス旅行や春、夏のお祭りなど家族が参加できる機会を作っている。人数は少ないものの家族の参加も得られている。	◎	/	○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	◎	電話やたよりで近況報告を行っている。極力写真も併用して利用者の近況が分かるように心掛けている。	○	/	◎	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	○	ニーズに沿った説明を行っている。	/	/	/	
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	△	ご家族の中でもキーパーソンとなる方との関係づくりは大切と考えている。ただし、コロナの影響で直接お話できる機会は減っている。	/	/	/	
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	たよりの定期的送付をはじめ、機会をとらえてご家族に説明報告するよう心掛けている。	○	/	○	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	△	春、秋祭りや演奏会、旅行など、ご家族も参加してもらえる行事を企画開催し、案内を行っている。	/	/	/	
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	○	ご家族の一定の理解は得られているものと考えている。	/	/	/	
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	ご家族の来訪時には職員によるあいさつや声掛けによりご家族の気がかりなことや意見、希望等の把握に努めている。	/	/	○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	利用者の立場に立って契約に関する説明を行い、不安点や疑問点の解消に努めている。	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	退去については、利用者の希望に応じていつでも自由に行けることを契約書に明記するとともに、その場合にも支援を行うことについて、運営規程及び重要事項説明書に記載している。	/	/	/	
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	料金改定の際には、毎回事前に説明のうえ同意を得ている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ.地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域:事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	運動会や文化祭などの地域行事に積極的に参加している。月2回は地域の老人クラブと交替で近所の神社清掃にも出かけている。秋祭りではスタッフが神輿を担ぐなど、地域の一員という考えを持って参加している。その他野菜作りなども地域の方に教えてもらっている。	/	◎	/	現在のコロナ禍において、地域住民等と交流できる機会は減少している。コロナ禍以前は、地域の神社清掃や市民大清掃などに参加したり、庭などで家族や近隣住民を招待して食事をするなど、地域との付き合いができていた。また、地方祭や演奏会、夏祭りなどのイベント時には、地域住民が事業所を訪問する関係が築かれている。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	◎	普段の散歩等でのあいさつや、地域の方も参加できる秋と春の祭り、演奏会などを定期的実施している。	/	△	◎	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	◎	事業所周辺の方には、利用者と認識してもらえるようになり、散歩の際の路上でのあいさつや会釈もいただいている。	/	/	/	
		d	地域の方が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	○	秋祭りや演奏会、夏祭りなどには、地域の方にも事業所に来てもらっている。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	運営推進会議の参加者を中心に、気軽にお付き合いできる方もできている。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	x	コロナ対策のため、事業所側からの働きかけは一切中断している。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	○	盆踊りなどを教えてもらっている。中学生や大学生の職場体験の受け入れやクリスマスや敬老会への参加などを行っている。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	買い物や理美容など、地元商店の利用を心掛けている。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	運営推進会議では町内会役員、民生委員、老人会、包括センター、市介護保険課、家族、入居者が参加し、行事や運営に関する報告や意見交換を行なっている。ただし、コロナ発生後は文書開催としている。	◎	/	○	運営推進会議には、全ての利用者、家族や地域の代表者、市担当者等の参加を得て開催している。現在のコロナ禍において、文章開催の方法も併用しながら、会議を開催することができている。また、会議では、スライドや映像を活用し、分かりやすく報告する工夫をしているほか、家族等から出された意見は詳細に記録し、検討して次の会議等で報告をしている。さらに、議事録は施設内で自由に閲覧できるようになっている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	◎	スライドやDVDを使って報告を行っている。	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	意見や提案による取り組み状況は、次回の運営推進会議で報告を行うようにしている。	/	◎	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	◎	日程や時間帯は事前調整を行い、できるだけたくさんの参加が得られるようにしている。	/	◎	/	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	△	議事録は事業所の玄関に掲示してきた。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	◎	誠心誠意を基本理念とし、毎朝の朝礼で唱和している。ユニット会では、その理念に基づいた実践について発表を行っている。	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	△	グループのホームページに理念を掲載し、発信に努めている。	○	○	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	随時事業所に出向き支援状況を把握するとともに、職員による発表の場でもある朝礼やユニット会にも参加し、力量の把握に努めている。また、自己意欲による動画研修や、職員の介護福祉士等の資格取得を促進しており、希望職員への研修受講の支援を行っている。	/	/	/	事業所には新人職員も多く、ベテラン職員がついて教える形で取り組んでいる。定期的に、カンファレンスなどの職員の集合時を活用して、全体研修を実施し、職員のスキルアップにも努めている。現在のコロナ禍の対応で、職員には県在宅介護研修センターの動画配信の研修を視聴してもらい、視聴後には報告書を提出してもらっている。さらに、代表者は、人づくりに力を入れているほか、管理者は日々の勤務終了後に職員に声をかけ、職員の話を聞いたり、相談に応じたりすることができており、職員のストレス軽減などにも取り組んでいる。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	△	日々のケアの実施状況や経験年数に応じて講習や研修を受けている。自社で開設している初任者研修、実務者研修には、受講資格のできた職員の受講を奨励している。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	会社全体で働きやすい環境作りをしている。毎朝の朝礼で唱和している理念にも5つめに「職員と職員の家族を守り大切にします。」が掲げられている。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	市町の連絡会等には管理者や担当者等を優先的に参加させている。職員の参加も可能な倫理法人会の勉強会など、職員にも参加を呼びかけている。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	◎	職員の話す時間を増やすことにより、必要に応じて随時の異動も含めた環境づくりを心掛けている。	○	○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	◎	虐待防止と身体的拘束の禁止については、介護の基本に当たるものとして、学びの繰り返しや職員の認識の深化を心掛けている。GHの運営規程や重要事項説明書、利用契約書にも、この2項は明記し、都度職員にも自覚を促せるようにしている。	/	/	/	年2回、虐待防止やスピーチロックなどの研修を実施し、管理者等は職員の言動の見直しに力を入れている。また、研修時には、職員同士で考えるグループワークも取り入れている。さらに、コロナ禍において、ワクチン接種前には、Zoom機能を活用した研修の対応もしている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	毎日の引継ぎの際に、振り返りについても議題に設定して、意見等が出やすい機会を設けている。	/	/	/	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見過ごされることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	◎	施設内を問わず虐待を発見した場合の行政機関への通報については、発見者の義務として職員に周知している。	/	/	◎	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	管理者やユニット長と連携しながら、職員の疲労やストレスも見落とさないように心掛けている。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	グループの隔月のカンファレンス(全職員会)で、毎年度テーマとして取り上げ、グループ討議形式で自分たちの課題として共有に努めている。	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	身体的拘束の具体的な事例ややむを得ない場合の所要手続き等について、ユニット会でも計画的にテーマとして取り上げている。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	◎	利用者の年齢が全員80歳以上で、利用者のほとんどが落ち着かされていることもあり、事業所としても利用者の安全確保のための身体的拘束については必要性はほとんどないと考えている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	○	一定の理解はできているものと考えている。当事業所に限ると、入居契約の段階で、将来にわたる所要経費や利用者の現金、通帳の保管方法等について、ご家族を含めて協議を行い一定の方向性を共有した上で、現金や通帳の管理希望があれば、契約の上、保管管理を行っている。				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○	上記の状況から、当グループ利用者やご家族のニーズには対応できていると考えるが、ご希望があれば関係機関や専門の弁護士等の紹介を含め丁寧に対応したい。				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	日頃の事業実施の中で、必要に応じてご協力をいただける状況にあるものと考えている。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	緊急時対応マニュアルを作成し、どの職員でも一定のレベルで対応できるようにしている。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	利用者の応急手当やAEDの操作訓練などを定期的実施している。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	事故発生防止指針により、グループ全体でヒヤリハットについても記録することとしており、毎月事故防止検討委員会において、当事業所からの委員2名も出席して、再発防止に向けた検討を行っている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	危険と思ったことはすぐに職員間で話し合い解決するようにしている。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	苦情対応マニュアルを作成し、迅速な対応に努めている。なお、当グループでは、苦情相談は事業所にとって最重要案件の一つとしてとらえ、全事業所とも相談窓口は法人代表者とし、利用契約書や重要事項説明書にも明記している。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	苦情については、法人代表者が直接お聞きし迅速に所要の対応することにより、苦情申立て者からのご理解も得ているものと考え。おかげで、こしばらくは市町に相談・報告を要する案件はない状況にある。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	(同 上) 苦情対応に係る第三者委員の設置はできていない。営利法人(有限会社)のため地域の役員等の方々にとって特定の応援につながりかねないこともあり課題の一つとなっている。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	利用契約書や重要事項説明書に明記するほか、運営推進会議でも苦情受付制度や窓口の周知を行っている。また、日常生活の中で利用者の意見、要望の把握に努めている。			○	利用者の意見は、日々の会話の中で担当職員を中心に聞き取り、対応をしている。また、家族の面会時には職員が声をかけて聞き取り、「楽しそうにしている、助かっています」などの意見を聞くこともある。また、管理者は毎日の勤務終了時に職員一人ひとりと会話をするようにしており、表情をよく観察しながら気になることがあれば、別途話しや相談に応じることを心がけている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	(同 上) また、職員にも周知し苦情のあった場合には、法人代表者につなぐよう周知している。	○		○	
		c	契約当初だけでなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	重要事項説明書に掲載の上、常時事業所内に掲出している。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	代表者は、頻繁に事業所に足を運び、管理者及び職員との接触を図っている。グループ全体で職員数が60人を超える規模になり、代表者によるこれまでの直接管理方法をどう見直していくのが新たな課題と考える。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	グループの規模のメリットを利用者も享受できるようになるには、管理者への権限委譲や管理者間連携による管理者の能力や資質向上が不可欠と考える。その一つが部下職員の把握であり、各管理者なりの創意を期待している。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	外部評価の結果を参考にして、ユニット会にて話し合いを行っている。	/	/	/	外部評価の訪問調査を昨年度予定していたが、コロナ禍において訪問調査が延期され、自己評価の見直しに取り組んでいる。外部評価の結果は、運営推進会議の中で報告するようにしている。また、家族へも外部評価の結果を文章で送付するとともに、普段の写真なども加えて報告している。さらに、利用者家族等アンケートから、サービス評価の取組みを理解されていない家族も窺えるため、簡潔にまとめた文章を添えて送付するなど、理解の促進に努めることを期待したい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	評価の結果、できていない事項の原因を解明し、学習テーマを決めて研修を行っている。	/	/	/	
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	事業所の年間目標を設定し、朝礼で唱和することで意識改善に努めている。	/	/	/	
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	運営推進会議時に報告し提示している。	×	○	○	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	ユニット会などで、話し合っている。	/	/	/	
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	災害ことへの対応について、マニュアルを作成し、事務室ロッカー常備している。	/	/	/	事業所では、災害対応マニュアルを整備し、事業所の裏山の土砂災害の可能性もあり、地区の避難所である中学校まで実際に行くなど、避難訓練に力をいれている。また、地域の避難訓練にも参加協力をしている。さらに、事業所では、食料や資機材などの備蓄品を用意することができている。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	県内外のコロナ発生施設の事例等から、グループホームの場合は、実質的には施設内対応が避けられない状況にある。このため、火災を起こさない、コロナを持ち込まない、地震の際は身を守り火元を点検することや、普段の取組みと訓練の重要性を職員間で認識しながら、計画的な訓練を心掛けている。	/	/	/	
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	定期的な確認や交換を行っている。	/	/	/	
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	火災関係訓練では、消防署の立会を依頼し、消火器の扱いや避難訓練についての講習も仰いでいる。	△	×	○	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	従来から地域の訓練には、極力参加をしている。コロナ禍克服後は再開したい。	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	△	運営推進会議で地域の方々へ認知症に関する理解と対応について情報を提供している。一昨年には、公民館で認知症に関する講習会(認知症サポーター養成講座)を行い、地域の方々へ認知症に対する理解を深めてもらう機会を設けた。今年度は開催を自粛し、文書による事業所の現状報告で代替している。	/	/	/	地域住民から相談が寄せられた場合には、快く見学を含めた対応をしている。事業所が行うイベントには、地域住民等の参加協力を得て開催することも多い。また、現在のコロナ禍において、イベントなどの開催はできていないものの、コロナ禍以前は中学校の職場体験を受け入れるなど、地域の福祉の拠点として認識されている。さらに、技能実習生を受け入れにも協力している。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	施設見学等のご希望などがあれば、率先して対応している。	/	×	○	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	今年度は、コロナを持ち込まないため、施設内への立入りは原則としてお断りしている。	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	◎	実習の受け入れ等は積極的に協力している。今年は中止となりました。	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	◎	法人幹部も地元自治会の役員を務めており、地域とともにありたいと願っている。	/	/	◎	